

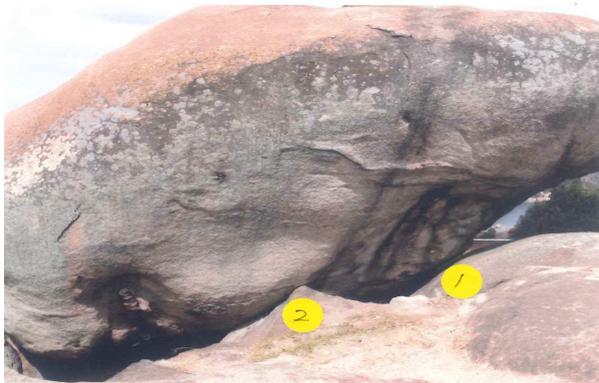
笠岡の高島から 「子妊石」の現状

藪田徳蔵先輩からのお手紙から

会員 山崎泰二

平成 25 年の秋に、「神武東征児島高島巡りシリーズ第 1 弾」として笠岡諸島の高島を訪問した。あれから 4 年も過ぎた。お手紙では 85 歳になり加齢と戦いながら、裏山の「子妊石」は主にご夫妻で守って来られた。当時は島中をご夫妻でご案内を戴いた。健筆なお手紙を紹介したかったが、ご本人が遠慮がちに強く辞退なされたので、私信でもありここではお手紙から私なりに付度（そんたく）して、「子妊石」の現状を報告させていただきます。

戴いた写真には下記の解説も添付されています。



- ① の箇所は 23 年皆さんが来訪された折には土砂やグリ石で埋没していた箇所です。昔大地震の跡で土砂を取り除くのが、どうも据付けた人の意に沿うように思えます。1 m の斜面に平行に隙間を造っています。下の自然石は其の儘に上の巨石の方を焼いて抉（えぐ）ってあります。1cm の箇所が 2 箇所ほどあり。
- ② の東南部に異常に張り出した偏重荷重を 40° で受け止めています。微妙な②の仕口で 1cm の隙間が保たれ、万一の大地震には左下部の孫姫石（命名が絶妙？）と①の部

分で受け止める事になっていると思います。

- ③ の 1cm 間隔技術の誇示、それは製作集団の軍事力の誇示にも見えます。



重量も計算して一回で大体を収めて、少しずつ削って据えたと思います。



能力と技術、当時の繁栄それにしても重機の無い時代の仕事、凄いと思います。

以上 藪田徳蔵氏の解説です。

笠岡の高島には高島神社や真名井の井戸など、神武東征伝説の有力地として他に遜色ない史跡が保存されています。詳しくは“きび考” 5 号と 6 号に掲載していますが、過疎地ながら皆さん頑張って守っておいでです。ご夫妻とも、お体を大切に次のお便りをお待ちしています。